

◇木曾川左岸遊歩道等整備事業の歩み◇



◇遊歩道の愛称：木曾川渡し場遊歩道◇

「行政的に整備が困難であれば、せめて遊歩道だけでも自分たちの手で整備できないものか！！」地域住民の意識の芽生えによる、ボランティア活動で成し遂げた、「木曾川左岸遊歩道等整備事業」の歩みについて、ここに記述します。

木曾川左岸遊歩道友の会事務局

目 次

《木曾川左岸遊歩道等整備事業の歩み》

◇事業の概要	1
1. 事業の背景	1
2. 作業開始までの経緯	1
3. 作業の実施状況	2
4. 作業の苦労話	2
5. 事業実施上の問題・解決策	2
6. 事業の成果（反響）	2
7. 事業成功の秘訣	2～3
8. 完成記念イベント	3
9. 「木曾川渡し場遊歩道」完成後の活動状況	3
◆他団体との交流状況	3
◆完成後の「友の会」の活動状況	3～5
10. 今後の取り組み	5
～あとがき～	6

《木曾川左岸遊歩道等整備事業の歩み》

◇事業の概要

- * 事業名 : 木曾川左岸遊歩道等整備事業
- * 事業区域 : 可児市今渡・土田地内（可児市の北西部に位置し、木曾川左岸河川敷地内）
- * 事業主体 : 今渡自治連合会・土田自治連合会
- * 事業規模 : 約4千平方メートル（距離720m×巾5.5m）
- * 事業内容 : 竹林・雑草の荒廃地をボランティアで遊歩道として整備
- * 事業期間 : 平成19年5月1日～平成20年6月30日
- * 事業経費 : 今渡・土田自治連合会負担金、十六地域振興助成金、地元企業等寄付金、ほか土木工事等の諸経費について市の援助を受けた

1. 事業の背景

- ①この木曾川左岸一帯は、半世紀に亘って竹林や雑草が生い茂り、放置されたまま荒廃地となっていた。
- ②このまま放置しておけば、ゴミの不法投棄の温床となる恐れがある。
- ③この一帯は、国定公園内にあつて、風光明媚な木曾川の清流、歴史を遺す風景、野鳥も育む恵まれた自然環境の中にある。
- ④歌川広重が描いた浮世絵の木曾街道52次「太田の渡し場」風景にも描かれた場所である。



整備前の竹林の様子



広重が描いた太田の渡し場風景

- ⑤このまま荒廃した状態で放置しておくのは勿体ない。何とか整備して埋もれた景観を甦らせ、市民の健康づくりや憩いの場所にしたい。
- ⑥平成14年頃から国へ、木曾川左岸の護岸対策と遊歩道の整備について要望してきたが、財政難と緊急性から要望は見送られてきた。
- ⑦行政的に整備が困難であれば、遊歩道だけでも自分たちの手で整備できないか。先ず「自分たちでできることから始めよう」という考えが地域の中に芽生えてきた。

2. 作業開始までの経緯

- * 発起人会立ち上げ【2007年 5月21日（月）】
- * 今渡・土田地区合同会議：7回開催
- * 地区別会議：延12回開催
- * 現地調査【2007年 6月 4日（月）】
- * ボランティア募集【2007年 9月15日（土）】
142名応募
- * ルートテープ張り【2007年 9月18日（火）】
- * 今渡地区作業説明会【2007年11月 4日（日）】
- * 土田地区作業説明会【2007年11月11日（日）】



第1回今渡・土田合同会議の様子

3. 作業の実施状況

* 作業期間

- ・ 作業の開始：2007年11月17日（土）
- ・ 作業の完成：2008年4月19日（土）
- ・ 5ヵ月半の短期間の作業で完成

* 作業実施回数：延23回

* 作業人数：延約1,000人



第1回整備作業の様子

4. 作業の苦労話

- ① 葛や藤の蔓が樹木や竹に巻きついていて切り払うのに苦労した。
- ② 竹藪の中は、枯竹や倒伏した竹が重なり合っていて、伐採して仮置きしていく作業が大変だった。
- ③ 作業区域に護岸用の蛇籠が設置してあって、つる草や、おなご竹を草刈機で伐採する作業がやりにくく手間がかかった。



竹の粉碎処理作業の様子

5. 事業実施上の問題・解決策

- ① 二つの自治連合会が連携して一つの事業に取り組むことは、あらゆる場合もそうであるように、それぞれの地域性や、地域事情があって困難が予測された。



市施工の取付け道路・飛び石設置工事

- ☆この事業の取り組みに際し、地域エゴを出さず、理解しあうことで連携して事業を進めることができた。
- ② 自治会活動として取り組むとき、自治会組織や自治会員に負担を強いることになり、理解が得られない。
- ☆事業の実施にあたり、自治会や自治会員の負担の軽減を図るため、ボランティアを募集して対応した。
- ③ 事業を推進していくには、ボランティアだけでは限界がある。（資金的な問題、技術的な問題、国交省との折衝の問題、重機を要する土木工事等）
- ☆行政（市）、地元企業等の支援により達成できた。

6. 事業の成果（反響）



完成後散策を楽しむ市民の皆さん

- ① 荒れ果てていた場所を切り拓いて行く苦しみの中に、自分たちの手で思いどおりの遊歩道をつくる、喜びと達成感が体感できた。
- ② 会員同士の交流があり、コミュニケーションを図ることができた。
- ③ 化石林や、伝説の「夜泣き岩」の存在が完成した遊歩道から眺められ、広く皆さんの知るところとなった。
- ④ 完成後は、「木曾川渡し場遊歩道」と命名し、健康づくりや散策路として多くの人に親しまれている。
- ⑤ 埋もれていた景観を甦らせ、「こころの景観」として、市民に憩いと安らぎの場を提供することができた。

7. 事業成功の秘訣

- ①ボランティア会員に遊歩道設置についての理解と、意欲があった。
- ②企業や行政（市）のバックアップがあり、国交省の理解も得られた。
- ③地域住民の期待や励ましがああり、ボランティアの心の支えとなった。

8. 完成記念イベント



奥田会長が完成式典で挨拶する様子

- * 「友の会設立総会」（出席者95名、来賓6名）
 - ・ 友の会名称：「木曽川左岸遊歩道友の会」（会員から公募）
- * 記念式典（出席者約180名）
 - ・ 遊歩道の愛称：「木曽川渡し場遊歩道」（一般公募により命名）
- * 記念講演
 - ・ 演題：「遊歩道周辺の自然と歴史の変遷」
 - ・ 【講師：金子郁朗先生】
- * ウォーキング大会
 - ・ 900余人参加



完成記念ウォーキング大会の様子

9. 「木曽川渡し場遊歩道」完成後の活動状況

◆他団体との交流状況

- * 平成20年 9月13日（土）
ケーブルテレビ可見「いきいきマイタウン」番組収録
- * 平成20年 9月19日（金） 豊田市7自治区遊歩道



豊田市旭地区一行遊歩道を視察

遊歩道」散策（「木曽川左岸遊歩道友の会」協賛・現地案内）
参加者約40名

◆完成後の「友の会」活動状況

平成20年度

- * 平成20年 7月 1日（火）
可児市樋管操作管理業務委託契約締結
- * 平成20年 7月 3日（木）
第1回役員会（年8回開催）
- * 平成20年 7月17日（木）
第1回整備作業（年8回実施）
延310余名参加



第1回芋煮会の様子



市委託樋管管理業務の土田樋管



市委託樋管管理業務の下田樋管

*平成20年10月26日(日) 第1回竹粉碎処理作業
(年6回実施) 延150余名参加

*平成20年11月22日(土) 芋煮会開催(参加者83名)

*平成21年 3月14日(土) 木曾三川ふれあいセミナー参加者6名

平成21年度

*平成21年 4月 1日(水) 平成21年度樋管操作管理業務委託契約締結

*平成21年 4月21日(火) 第1回役員会開催

*平成21年 4月29日(祝)
竹粉碎処理作業実施 64名参加



竹粉碎処理作業の様子



定例総会準備等審議中の第1回役員会

*平成21年 5月 6日(祝)
定例総会開催 出席者82名・来賓13名

*平成21年 5月 6日(祝) ウォークラリー実施 参加者45名

*平成21年 5月20日(水)
名工大院松本研究室松本教授を囲む懇談会開催
テーマ:「中山道美濃路宿をつなぐ景観計画」
出席者: 大学側=松本教授ほか4名
友の会側=奥田会長ほか10名

*平成21年 5月22日(金) 会報第4号発行

*平成21年 5月28日(木)
今渡北小3年生児童「木曾川渡し場遊歩道」見学
参加者: 先生7名・生徒約160名

*平成21年 6月10日(水) 第2回役員会開催

*平成21年 6月24日(水) 遊歩道周辺整備作業 参加者35名

*平成21年 7月30日(木) 第3回役員会開催

*平成21年 8月 6日(木) 遊歩道周辺整備作業 参加者23名



今北小児童校外授業で遊歩道見学

*平成21年 8月10日(月)
可児市生き生き創年ゼミ一行遊歩道散策
参加者: 約100名



平成21年度定例総会の様子

*平成21年 8月 7日(金)
中山道をつなぐ三者研究会
テーマ「木曾川を挟んだまちづくりの進め方」
参加者: 大学側3名・友の会3名・宿木側4名



第3回遊歩道周辺の整備作業の様子

- *平成21年 8月12日(水)
遊歩道周辺の公園化等整備構想について
市中村建設部長へ協力要請
- *平成21年 8月20日(木)
遊歩道周辺整備作業 参加者55名
- *平成21年 8月25日(火) 会報第5号発行
- *平成21年 8月29日(土)
土田小学校児童「竹細工教室」実施
参加者：子ども80名・父兄一般220名



第5回遊歩道周辺整備作業の様子



- *平成21年 8月29日(土)
ケーブルテレビ可児取材
「遊歩道のその後」について

10. 今後の取り組み

「友の会」では、「木曽川渡し場遊歩道」周辺の維持管理に努め、環境と景観を保ちつつ、多くの人に歩きながら木曽川の景勝を満喫して頂けるような場所にしていきたいと考えている。

将来的には

- ①竹林を主体に自然と史跡を活かした水辺の公園を造って市民がふれ合える憩いの場として整備したい。
- ②「木曽川渡し場遊歩道」から木曽川土田堤防を経て中濃大橋を渡り、中仙道太田宿を歩き太田橋を径由して周回できる、ウォーキングコースとして整備したい。
- ③「木曽川渡し場遊歩道」から、木曽川土田堤防を経て、カタクリ群生地のある可児川下流域自然公園および、鳩吹山登山口まで通じる散策路・ジョギングコースとして整備したい。

～あとがき～

平成19年5月に、「木曾川左岸遊歩道等整備事業」を始めるに当たり、今渡・土田の両自治連合会が中心となり、両地区が協働で事業の実施を目指し、連携して事業に取り組んできました。

まず、難事業が予測されることからボランティアを募集して、そのパワーを頼りに実施しようということで始めましたが、当初どれだけの人が集まるか、予想しがたく不安を抱いておりました。

結果的に予期せぬ142名という多数の方の応募があり、役員としても意を強くし、事業実施に向けて大きな自信となりました。

事業も、ボランティアの皆さんの献身的なご協力により、短期間で完成の運びとなり、平成20年6月には、盛大に完成記念式典を開催することができました。

また、遊歩道の愛称も一般公募の中から、「木曾川渡し場遊歩道」と命名し、市内外の人たちに親しまれています。

今回、「木曾川左岸遊歩道等整備事業の歩み」として、現在までの活動状況をまとめ、皆さんに提供させていただくことにいたしました。会員の皆様には、自分たちの熱意と努力で成し遂げた記録として留めていただき、成果を誇りに今後の活動に活かしていただければ幸甚に思います。

なお、ページの後段に、金子郁朗氏・曾我崎夫氏の協力を得て、遊歩道周辺の史跡や自然植物の紹介を掲載させていただきました。散策されるときのガイドとして活用いただければと思います。

金子・曾我の両氏には、紙面をお借りし、感謝とお礼を申し上げます。

《編集責任者：田口事務局長》



「木曾川左岸遊歩道等整備事業」の歩み
発行日 平成21年9月発行
発行者 木曾川左岸遊歩道友の会事務局

